

【大阪の歴史散歩】

改築された大阪城

私達の一番手近にありながら、何時でも訪ねられると思いつつ、つい足を運んでいない大阪人の心の故郷が大阪城である。

1ヶ年の日時と、約70億円の巨費を投じて平成の大改修が行なわれてはや半年を経過した。当座はもの珍しさもあって多数の見学者を集め、一時はラッシュアワーの駅のような賑いを見せていたが、最近では静かに見学できる雰囲気に戻った。

1496年（明応5年）戦国時代の真只中、蓮如上人が坊舎を営み、石山本願寺と成長し権勢をふるい、大坂発展の礎を築いた。やがて石山本願寺は織田信長に滅ぼされ、そのあとを継いだ豊臣秀吉が大坂と繁栄を手に入れることになる。

1583年（天正11年）秀吉によって天下が統一され、石山本願寺の跡地を改造して新たに大規模な築城を開始した。15年余の歳月をかけて完成したのが初代の大坂城であった。当時、その規模は敷地面積にして現在の大阪城公園の約5倍に及び、本丸には外観5層、内部9層の金箔瓦で飾られた豪華絢爛たる天主閣が聳えていたという。

秀吉没後、徳川家康が政権を掌握し、大坂城は1614年・15年の大坂冬の陣・夏の陣によって落城した。家康は秀吉の面影を消去すべく初代大坂城を地下に埋め、戦後処理のため大坂入りした松平忠明をもって城下町の復興に当たさせた。大坂を直轄地とした幕府は、秀忠、家光2代の間西日本の外様大名65家を動員し、巨大な石垣や堀をもつ大坂城再建に当たさせた。なかでも、約130tonと推定される巨石（蛸石）の運搬、大手門の柱の特殊な継手など現在の技術でもって驚くべきものがある。これらの石垣の表面には再建当時の工事分担を示す大名刻印が残っており、徳川幕府の強烈な外様大名支配の有り様が目に浮かぶ。

この2代目の大坂城の天主閣も1665年（寛文5年）落雷による火災で消失した。それ以後270年間は天主閣の存在しない城となっていた。

1931年（昭和6年）大阪市の昭和大典記念行事

として市民の浄財を募り、大阪城公園整備とともに、『大坂夏の陣図屏風』を参考に天主閣の外観を再現して3代目の大阪城が再建された。その後、太平洋戦争で貴重な建造物はあらかた失われてしまった。戦後、史跡公園として再整備されることとなり、天主閣の再開、古建造物の修復、博物館の開設が行なわれ、近年は国際文化スポーツホールである大阪城ホール、野外音楽堂、森林公園、迎賓閣などが作られ、今や国際的な大史跡公園として発展しようとしている。

天主閣の南側にはヨーロッパの中世風の城郭建築を真似た洋館がある。戦争の間は旧陸軍の第4師団司令部で、戦後は珍しい制度であった大阪市警察本部を経て、1960年（昭和35年）からは大阪市の立博物館となっている。

天主閣と博物館をメインに大阪府庁の前の大手門から入り、梅林、大阪城ホール、大阪ビジネスパーク（OBP）を経て京橋駅に至るコースで新旧のコントラストを楽しむのもいいものです。

大阪城天主閣へはJR環状線『大阪城公園』、東西線『大阪城北詰』、地下鉄谷町線・中央線『谷町4丁目』、長堀鶴見緑地線・中央線『森ノ宮』、京阪電鉄『天満橋』下車で、徒歩15～20分。

